

令和2年度 事業報告書

介護老人福祉施設 早蕨
デイサービスセンター 樹蔭
デイサービスセンター 庵
ホームヘルプステーション あおやぎ
居宅介護支援事業所 さわらび

【 はじめに 】

令和 2 年度は「新型コロナウイルス感染症予防」の一年であった。ご利用者様においては、外出レクリエーションも出来ず、ご家族との面会もオンライン等に切り替えて頂いた。また、一大イベントである納涼祭や敬老会もご家族様や外部の方々を招くことも出来ず施設の内部行事として執り行った。ご利用者様、ご家族様、そして職員にとって、本当に我慢の一年であった。

結果として、感染症においては、新型コロナウイルスの感染者は高知拠点では 0 名、さいたま拠点では新入所者が入所間もなく発症したが、拡大することはなく 1 名にとどめることが出来た。インフルエンザ、ノロウイルスについては両拠点ともに 0 名であった。

苦情に関しては、居宅支援事業所において、対応の遅さと説明不足を指摘された 2 件の苦情があった。感染症対策を考えながらの対応ではあったが、今後は丁寧な説明と誠実かつ迅速な対応を行い、全事業所において同じ指摘を頂かない様に努める。

事故報告に関しては、保険者への報告事例が高知拠点で 8 件、さいたま拠点で 3 件であった。いずれも生命に関わるような重大な事故はなかった。

令和 2 年度の結果をふまえ、改善すべき点は速やかに改善し、継続すべき点は職員全員が継続出来るように努めて行きたい。

【 地域連携室 】

(1) 相談対応

令和 2 年 4 月から令和 3 年 3 月までの間に電話や来所による相談対応は 125 回であった。相談の内容としては、介護保険に関することや生活に関することであり必要に合わせて包括支援センターや居宅介護支援事業所等への連絡や引継ぎを行った。

相談の一例

ケアマネの変更をしたいので事業所の紹介をしてもらいたい
自宅に手すりを取り付けたい
最近母親の物忘れがひどくなったように思い心配
介護保険サービス利用に於いての悩み事
介護保険サービスを利用したい
身体の不調や心配事
暮らしの中での困りごと（電球の取替ができない等）

(2) 地域活動

高須地区民協定例会への参加
高須老人会ミニデイへの参加と後方支援
五台山東和老人会で行われるいき百体操と交流会への参加
五台山地区田役
高須小学校周辺の清掃と花壇整備
エコマックの PR と配布

(3) 総括

コロナ禍において例年行われる地域の行事が中止となったこともあり、地域の方々との交流や協力できる機会があまりなかった。

新しい日常の中での地域活動に向けて、何が必要であり求められているものは何なのか情報収集や地域の声を拾うことによって、取り組みについて考えていきたいと思えます。

相談対応に関しては、丁寧に対応し、適切な支援へと繋げられるようしっかりと受け止めて引き続き対応して行く。

【 介護老人福祉施設 早蕨 】

(1) 基本方針

① 「生活の場」としての施設援助

施設の基本理念「誠実な心、優しい心、進取の心で利用者の生活に「安心」をもたらします」を常に職員間で確認しながらケアを行った。

② 個別ケアへの取り組み

一人ひとり個別の状態を把握するため、日頃から心身の状態を観察する。

多職種で意見を出し合いケアプランを作成し、解決すべき課題には優先順位を付けて取り組んだ。

(1) 生命に関すること

(2) 利用者・ご家族の要望

(3) その他優先すべき解決課題

以後、状態に変化（疾病、事故、褥瘡形成等）が見られた際、要介護度に変更があった際、ご利用者やご家族から希望があった際、期限が満了した際には担当者会を開催しご利用者とそのご家族が満足できるように対策を行った。

③ 職員研修の実施

福祉の専門職として、質の高いサービスが提供できる職員の育成を目標に、年間を通して研修を計画した。

施設内研修（全体会議）は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として12回のうち10回を紙面会議とし、年間計画のテーマに沿って各職員が紙面にて学んだ。施設外研修は、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止になる研修も多かったが、会場研修19回(参加人数24名)、オンライン研修9回(参加人数17名)に参加し、知識・技術の向上に努めた。

オンラインによる研修は、新型コロナウイルス感染症の状況により次年度も活用していきたい。

④ 社会貢献、地域貢献

地域が定例として取り組まれている清掃活動（田役）に7月と令和3年2月に参加したが、五台山地区の夏祭りについては、行事自体が中止となり参加することができなかった。又、介護・健康相談は新型コロナウイルス感染症予防の為、中止とした。今後の感染症の状況により地域との関わり方も含めて検討して行く必要がある。

(2) 介護方針

① 離床対策

朝・昼・夕の食事やおやつは、基本的にホールで摂取して頂くことで寝食分離に努めた。身体上座位がとりにくい方に対してもリクライニング式車椅子を活用する等して、離床時間を確保するように努めた。

② 認知症入所者への対応

施設内研修(全体会議)にて勉強会を行い、認知症について理解を深める事が出来た。認知症教育計画で予定していた職位階層別の勉強会や認知症の理解度テストが実施できなかったため次年度は実施していきたい。今後も定期的に職員へのヒヤリング、認知症に対する情報共有を行い、BPSDのケアに特化したチーム作りに努めたい。

③ 職員教育

年度初めの全体会議(紙面会議)にて、法人理念の再確認と教育部の事業方針について職員に伝達し、職員間で共有する取り組みを行った。

特養では介護教育年間計画を作成し、基本ケアや福祉職員としての姿勢について教育するとともに、ご利用者との関わり方等においては、通常業務に入りケアを共にすることで、ケアの実施方法や課題の発見と解決に取り組んだ。又、朝の申し送りでは、多岐にわたる問題提起と直近課題に対するアドバイス・指導に努めた。

新入職時研修では、基本的ケアや施設概要を説明し集中勉強会を行った。新任・中途採用者への技術的な指導としては、通常業務を行いながら直接指導を行った。必要時には個別にヒヤリングを行い、困り事の解決と技術指導を行った。

令和2年度の課題として、年間計画に沿った教育が実施できておらず、直近課題に対する対応が中心となった。次年度の方向性としては、新型コロナウイルスへの感染に留意し、職種間の連携を密に図ることで職員のスキルアップに努める。

④ 身体拘束ゼロ・虐待ゼロの推進

身体拘束廃止委員会、虐待防止委員会を中心に外部研修にも参加し、その内容を特養部会等でフィールドバックする等して、拘束、虐待に対する職員の意識向上に努めた。令和2年度も身体拘束事例0件、虐待事例に関しても0件だったが、ご利用者と職員へのヒヤリングを全員に実施し、ヒヤリングで出た意見を職員間

で検討し、不適切なケアの防止に取り組んだ。全体会、朝の申送り、特養部会等を通じて介護の質の向上、虐待防止に向け次年度も啓発を継続していく。

⑤ 在宅復帰

令和 2 年度は 1 名の方が在宅復帰された。担当者会では復帰にあたってご家族やご利用者の意向を伺いながら、在宅復帰が可能かどうかの検討を行った。

(3) 生活援助方針

① 食事

給食委員会で出た意見や要望、改善すべき点は、出来る範囲で速やかに対応した。今年度は感染症予防の為、行事自体は実施出来なかったが、かわりに行事にちなんだお弁当や手作りのおやつを提供する事で季節を感じてもらう事が出来た。ご利用者の嗜好を知る為に管理栄養士が食事時の様子を観察したり、直接意見を聞くなどしてご利用者個人に合った食事の提供を心掛けた。

栄養マネジメントでは、介護部門と連携し、ケアプランに沿った栄養ケア計画書を作成し実施した。体重減少や低栄養状態にあるご利用者には、看護部門と連携し、補食の提供や提供量の見直しを行い、状態の改善に努めた。

献立では食事から季節を感じる様な献立を考え、新しい献立を取り入れることが出来た。

② 口腔ケア

横山歯科の医師の指示を受けた歯科衛生士が「口腔機能維持管理サービス」として、口腔ケアの希望ご利用者に対して、月 2 回以上口腔ケアを行った。又、毎月、歯科衛生士と口腔委員が入所者全体の口腔ケア・マネジメント計画書、モニタリング表を作成し、口腔ケアを行った。入所時と年 2 回、変化のあった時に、義歯や口腔の状態チェック表を作成、ご利用者への支援としては、1 日 3 回の口腔ケアを目標に口腔ケア実施チェック表を作成し取り組んだ。次年度も引き続き口腔内の清潔を図り、疾患予防に努めていく。

③ レクリエーション・クラブ活動

施設行事、季節行事、外出行事、茶道、華道、カラオケ、料理などのクラブ活動を企画していたが、新型コロナウイルス感染症予防の為、ご利用者の外出やご家族参加の行事は中止となった。各階でのレクリエーションや活動を行えるよう、料理クラブや茶道クラブを各階、月 1 回の実施を行い、多くの方に参加していただき楽しんで頂くことができた。新館ホールでは、ご利用者・短期入所者共にカラオケや DVD 機材を使用し懐かしい画像を見て頂き、回想法・気分転換の機会を設ける事が出来た。納涼祭や敬老会等は各階でお祝いや職員からの出し物を行い、例年より規模を縮小し行った。今後においても新型コロナウイルス感染症予防の観点から行事の規模や行い方も含めて検討していく必要がある。

④ 排泄ケア

個別に排泄パターンをとり誘導場所の統一や居室内の環境整備を行ったことでトイレで排泄できるご利用者が増えた。また使用されるオムツ備品の検討を随時行い、個別に排泄援助回数を変更している。今後も、ご利用者の状況の応じた、回数やオムツ備品を提供出来る様努める。

⑤ 入浴

浴槽に「ゆっくり」と浸かれる時間が増え、ご利用者からも「気持ち良かった」等の発言も多く聞かれる様になったが、まだ十分な時間の確保が出来ていない。また、ご利用者の重度化に伴い、適切な介助方法についても入浴委員を中心に検討し、困難事例に関しては専門職の意見も交え対応を行っている。夏場、発汗による身体の清潔保持の為に更衣、入浴希望があった場合は随時の入浴対応、ご利用者の身体、精神等の状況により入浴日の変更の検討を行った。引き続き、清潔保持とリラックスタイムの確保に努める。

⑥ 個別機能訓練

令和2年7月から機能訓練指導員が主となり個々に応じた機能訓練計画書を作成し、他職種と連携、協力しながら日常生活動作訓練、週2回(2階:月・木、3階:火・金)の集団体操を実施した。日常生活動作で、今できている動作の維持につながっている。令和3年2月より施設体制の変更により、生活内での訓練を希望者を行った。

⑦ 褥瘡予防ケア

入所時、退院時、入所後3ヶ月毎にOHスケールにて褥瘡の危険度の判定を行い、危険度の高いご利用者に対しては予防計画を作成し、褥瘡防止に努めた。予防対策としては入浴時にご利用者の全身の皮膚チェックを行い、異常の早期発見に努めている。また、褥瘡発生時には基本的な対策である除圧、ズレの防止、ポジショニングの考案や伝達、指導を行った。褥瘡者や褥瘡の発生リスクが高いご利用者等には体位変換表を用い、関わったスタッフのサインを残す事でスタッフへの個別指導や意識向上に努めた。申送りの際、創の部位や注意点について伝達し情報共有を行った。褥瘡が発生した際、創の写真を撮り褥瘡対策に関する評価を行う事で往診時に細かな指示がいただける様に繋げた。悪化時は早期に受診しDr指示に基づいた処置を開始する事で早期治療に努めた。体位変換に使用するクッション類の補充や、パフを使用する事で浸出液の吸収力アップや除圧に繋がり早期治癒となる事例もあった。食事に関しては栄養検査データのチェックや食事カロリー、食事形態、補食の追加を栄養士と連携し行った。

褥瘡発生者15名(持ち込みなし)治癒10名。入院者1名。3/31現在4名の方が継続している。今後はご利用者の年齢や状態に合わせた離床、臥床時間を考慮しつつ、多職種と連携し発生、予防に努めていく。

⑧ 事故発生防止

行政への事故報告件数は 8 件であった。令和元年度より 6 件減である。

ヒヤリハットリスク 2 での発生場所としては居室が 40 件と最も多く、続いてホールが 37 件であった。種類別では前年度と同様に転倒が 21 件と最も多く、続いてずり落ちが 18 件となっている。車椅子からのずり落ちについては座位姿勢の確保が十分に出来ていない事等が挙げられる為、クッションの活用やポジショニングを行い、リクライニング式車椅子の角度も長時間垂直にならないようにする。再発防止について施設全体で取り組んでいるが、周知徹底が出来ていない事もある為、次年度は事故発生時施設提出書類の他に各階申送にファイリングし職員全員が内容の把握、早期の対応に繋げ再発防止に努める。

⑨ ケアプラン

原則 6 ヶ月毎に担当者会議を開催、褥瘡の形成や退院後等、状態に変化が見られた場合には随時担当者会を行いプランの見直し、ケアプランの再策定を行った。担当者会においては感染症予防の為に、ご家族との対面式会議は行えなかったことから、プランやモニタリング内容を、文章や電話で細かく伝えることでご利用者の現状を把握して頂けるよう努めた。

またプランに変更があった際にはケース記録への記載や申送時に担当者会議の報告やケアプランの周知に努めた。

(4) 医療と看護

施設のご利用者が、よりよい環境で平穏に過ごせるよう各種スタッフと連携を図りながら、心身の健康管理に努めた。ご利用者の容態に変化がある場合、医師に速やかに報告し病院へ搬送、治療する事で病状の悪化を防いだ。ご家族との連携を密に図り状態報告をすることでご家族にも安心して過ごして頂けるよう努めた。受診時は、協力病院及び皮膚科、眼科、耳鼻科、脳外科、泌尿器科、総合病院（救急）と連携を取り受診の援助と付き添いを行い、適切なよりよい看護が提供できるよう努めた。

感染予防についてはインフルエンザの予防接種は職員、入所者共に可能な限り実施し、罹患者はご利用者、スタッフともに 0 名であった。ノロウイルスの感染者も 0 名であった。また新型コロナウイルスについては、ご利用者、職員ともに AM・PM 検温を実施し有熱者はその都度病院受診し、新型コロナウイルス抗原検査や PCR 検査を実施。令和 3 年 3 月 31 日現在、新型コロナウイルスの罹患者は出ていない。

新型コロナウイルス感染症対策

職員においては、出勤前に個々の家庭で体温測定を行い、就労時に再度体温測定を実施。就労前や外出から帰った際は流水と石鹸で手洗いを行ってから勤務につく。(37.0℃以上の発熱又は咳、倦怠感等の症状がある場合には出勤(勤務)を行わない様に徹底。)

37.0℃以上の発熱又は咳、倦怠感等の症状がある職員については、過去 2 週間の行動履歴を確実に把握する様に努めた。発熱などの症状がある場合は施設長又は事務長に報告する。

利用者に関しては 3.31 現在、新型コロナウイルスの感染疑いや罹患者は出ていない。

一般入所者の方においては、入所前に PCR 検査を行い、陰性結果を確認後に入所して頂くなどの対応も行った。

ショートステイ利用者においては送迎時にご利用者やご家族の健康状態を聞き取り、ご利用者の体温測定を行った後、発熱又は咳・倦怠感等の症状がある場合にはショートステイをお断りすることとした。ショート入所前には手指消毒を実施している。

面会については、R.2.2.25 より緊急やむを得ない場合をのぞき面会を中止しオンライン面会等に切り替えている。

換気について、常時換気を行い適切な温度管理に努めた。

手摺り等の共有部分のエタノール消毒や毎食後のテーブル消毒等の予防対策は、現在も続けている。

(5) 相談（苦情）

令和 2 年度、苦情に関する相談件数は 0 件であった。ご家族に対してはご利用者の生活状況について随時説明を行っており、その結果、苦情には至らなかった。

(6) 利用者の状況

令和3年3月31日現在

① 現状

		男	女	計
異動状況 R2.4.1 ～ R3.3.31	入所	5	24	29
	退所	9	20	29
年齢構成 R3.3.31 現在	60～64	0	0	0
	65～69	1	1	2
	70～74	0	3	3
	75～79	1	6	7
	80～84	2	8	10
	85～89	6	16	22
	90以上	3	33	36
計				80

② 入退所の状況

	入所前の状況			入所者数 計	退所者の状況					退所者数 計	月末 在籍 者数
	在宅	病院	その他 (他施設から の転入等)		社会 復帰	家庭 復帰	医療機関 入院	その他 (他施設へ の転出等)	死亡		
R2年 4月		3		3			2		1	3	80
5月	1			1					2	2	80
6月		2		2					1	1	80
7月		1		1			1			1	80
8月		2		2			2			2	80
9月	1		1	2			2			2	80
10月		2	1	3			2		1	3	80
11月		2	1	3			1		2	3	80
12月		1	1	2			1		1	2	80
R3年 1月			1	1		1	1		1	3	80
2月	1	3	1	5			3			3	80
3月		3	1	4			4			4	80
計				29	計					29	

③ 利用者の生活状況〈令和3年3月31日現在〉

A 日常生活動作状況（80人）

		人数	%
移動	自立	13	16
	一部介助	23	29
	全介助	44	55
	計	80	100%
排泄	自立	3	4
	一部介助	42	53
	全介助	35	43
	計	80	100%
食事	自立	37	46
	一部介助	23	29
	全介助	20	25
	計	80	100%
入浴	自立	0	0
	一部介助	49	61
	全介助	31	39
	計	80	100%
整容	自立	12	15
	一部介助	40	50
	全介助	28	35
	計	80	100%
寝返り	自立	22	27
	一部介助	26	33
	全介助	32	40
	計	80	100%
着脱衣	自立	3	4
	一部介助	52	65
	全介助	25	31
	計	80	100%

B 面会者状況

	面会のあった利用者	
	人数	面会回数
4月	0	0
5月	0	0
6月	26	41
7月	37	75
8月	7	9
9月	4	11
10月	7	13
11月	7	11
12月	8	19
R2年1月	4	13
2月	7	12
3月	10	17

面会は感染症拡大防止のため 6 月 22 日より 7 月 31 日まで飛沫感染ボード使用し 10:00~16:00 の間で 10 分以内での面会を行った。

8 月 1 日よりオンライン面会に切り替えを行った。

*対象者：令和 3 年 3 月 31 日 在籍者

期 間：令和 2 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日

④ 外泊状況

外泊回数	男	女	計
0	0	0	0
1	0	0	0
2	0	0	0
3	0	0	0
4	0	0	0
5回以上	0	0	0
合計	0	0	0

*対象者：令和3年3月31日在籍者

期間：令和2年4月1日～令和3年3月31日

(7) 特養入所者状況、ショートの利用者状況

順次入所面接を行い、総合的な判断を他職種と連携しながら俊敏に対応を行った。ショート入所では緊急依頼の対応、新規の相談等、日程調整し多職種と連携し受け入れるよう努めた。

【令和2年度利用者数の月別推移】

月 利用者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月
入所	2,330	2,393	2,321	2,415	2,395	2,301
ショート (空床含む)	278	287	297	322	312	299
合計	2,608	2,680	2,618	2,737	2,707	2,600

月 利用者数	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均 利用率
入所	2,361	2,269	2,390	2,345	2,055	2,285	27,860	95.39%
ショート (空床含む)	298	291	316	343	332	322	3,697	101.36%
合計	2,659	2,560	2,706	2,688	2,387	2,607	31,557	96.06%

【平均利用率の年別推移】

年度	H28	H29	H30	R1	R2
入所	94.51%	97.08%	93.83%	96.29%	96.14%
ショート (空床含む)	99.40%	106.58%	105.07%	104.31%	101.36%
合計	97.34%	95.24%	97.27%	97.05%	96.06%

令和2年度は新型コロナウイルスの影響もあり家族からのご要望(依頼)も少なかった。入所者の入院数も増加し、完治できず退居は29名と昨年より5名増えた。またショートステイキャンセルも相次いだ。

令和2年度行事実施報告

(備考)

月1回 *誕生日会 *外食

月2回 *ホーム喫茶 *料理クラブ *茶道クラブ *カラオケクラブ *買い物

毎週 *華道クラブ

その他 レク

※新型コロナウイルス感染症予防の為、外出、外食は中止した。また各階への移動を少なくする為、料理クラブ、茶道クラブは各階で行えるよう月2回に変更した。買物ではご利用者の参加は中止し、職員が聞き取りした物を買出しに出かけた。

月	日	行事
4月	3日	お花見 (駐車場での桜見学に変更)
5月	9日	田植え見学 ※中止
	8日	防災訓練 (風水害想定)
	15日	新緑ツアー ※中止
6月	4日	あじさい見学 ※中止
7月	27日	納涼祭 (2階・3階各フロアで職員の出し物と祝い膳)
8月	14日	花火
	24日	五台山夏祭り ※中止
9月	21日	敬老会 (2階・3階各フロアで職員の出し物と祝い膳)
10月	12日	観月会 ※中止
	20日	運動会 ※中止
11月	12日	ドライブ ※中止
	13日	防災訓練 (地震想定)
	26日	介護・看護健康相談 ※中止
12月	25日	クリスマス忘年会 ※規模縮小
	28日	もちつき ※中止
1月	7日	新年会 ※規模縮小
2月	1日	節分 ※規模縮小
	4日	防災訓練(夜間想定)
3月	3日	ひな祭り ※規模縮小

【 デイサービスセンター 樹蔭 】

(1) 基本事業

生活指導、日常生活動作訓練、個別機能訓練、健康チェック、送迎、入浴、食事サービス、口腔機能向上訓練、相談・助言に関する事

(2) 目的・基本方針

在宅で要介護状態となった対象者に、デイサービス各種のサービス（送迎、入浴、食事、健康チェック、レクリエーション）日常生活動作訓練（リハビリテーション）を行い、在宅での閉じこもり防止、社会的孤立感の解消、心身機能の維持向上に努めた。

通所介護個別援助計画、介護予防通所介護個別援助計画に基づきご利用者にとって在宅生活に必要なサービスの提供や援助を行った。計画期間終了時にはサービスの評価を行い、状態に合わせて計画の継続・変更を行った。

ほとんどのご利用者が心身状態を維持されていた為援助計画の継続としたが、一時入院されたご利用者等は状態の変化もありそれに応じて目標の見直しや訓練内容の変更など再検討を行った。

又、要支援対象者には、運動器機能向上訓練（パワーリハビリテーション等）・アクティビティ（創作・集団レクリエーション等）を実施し、生活機能の向上ができるように努めた。

(3) 年間行事

季節感を感じることでできる行事を担当職員が作成・実施を行った。多くのご利用者が参加できるように見学だけでも楽しめる催しものや参加型では、座った状態でも行えるレクリエーションを意識して起案・実施した。

毎月誕生日会を行い、誕生者の発表と誕生日カードのプレゼントをお渡しし喜んで頂けた。また新型コロナウイルス感染症対策のため、規模縮小しての催しではあったが毎月2日間、特別なメニューや季節を感じられる食事の提供に努め好評であった。

(4) リハビリテーション

ご利用者の生活に即した個別機能訓練計画書（要介護者）、運動器機能訓練計画書（要支援者）を作成し、機能及び筋力向上トレーニングを行った。要介護者に対しては3ヶ月毎に自宅訪問し計画書の内容や評価内容を説明、要支援者に対しては毎月評価を行い、自立した生活が送れるようにプログラムを計画し実施した。評価の際には、ご利用者やご家族の意向を確認し個々の状態に沿った計画書となるように努めた。

理学療法士を常勤で配置することにより、医学的・社会的視点から身体能力や生活環境等を評価し個人に合った計画の作成を行うことが出来た。パワーリハビリや理学療法、温熱療法やマッサージ療法等の様々な訓練に参加して頂き、生活スタ

イルが維持できるよう努めた。結果として生活・身体機能の維持、及び向上につながる事が出来た。

又、在宅で行える筋力増強訓練やADLにおける指導なども継続して行った。

個別機能訓練加算Ⅱについてはご利用全体の75%となっている。

(5) レクリエーション

遊ビリテーション、作業療法の目的も含めると共に、ご利用者のレベルに合わせた個別レクリエーション（大人の塗り絵・計算ドリル・漢字ドリル・将棋・囲碁・カレンダー作り・創作活動）の提供と集団レクリエーション（カラオケ、箸抜き等）に取り組んだ。

個別レクリエーションではご利用者の好みの聞き取りを行い、主体的な取り組みができるように配慮することで脳の活性化に努めた。又、集団レクリエーションを通し、ご利用者同士の関わりを持つことができ、社会性のある活動を提供することができた。

陶芸教室では、専門の指導者のもと希望されたご利用者自身が作品を創作し、持ち帰ることが出来たため、ご利用者だけでなくご家族にも好評であった。

(6) 入浴

入浴に関する動作が可能な範囲自身で行えるように個々に合わせた声掛け、部分介助を行い身体機能の維持に努めた。身体状態に合わせて特浴の使用も行い安全・安心して入浴できるよう配慮した。一般浴では広々とした湯船での入浴を喜ばれ、特浴では肩までゆっくりと湯船に浸かることができるため入浴の時間を楽しみにされているとの意見を頂いた。

冬至の季節にはゆず湯を提供し、ご利用者から好評であった。

入浴利用率については、利用全体の78%となっている。

(7) 食事

適切な温度での食事提供が行えるように、ご利用者の希望や必要に応じて食事の温め直しなどを厨房に依頼した。食事形態は決められた状態での提供を行ったが、口腔内の状態や食物の調理方法等に応じてご利用者と相談し、その都度形態変更を行い安全に食事していただけるように努めた。

(8) 排泄

トイレ定時誘導を行った際には記録を行い、排泄の有無だけでなく間隔の把握を行い尿意が曖昧であっても失禁に繋がらないように努めた。

排泄中の見守りが必要な方に対しては可能な限り個室の外から見守りを行いプライバシーへの配慮を行った。

家族の希望や坐薬での排便コントロールを行っている方には、連絡帳にて便の形状や量をお伝えし情報の共有を行った。

(9) 送迎・家族交流

送迎時は職員がご家族及びご利用者本人に身体状況及び施設等への連絡事項等を聞き、職員全員がその内容を把握するために「申し送りノート」にて確認を行った。又、利用の際にはその日の気づいた点や、健康チェック、入浴の有無、体重等を連絡ノートに明記することでご家族との情報共有に努めた。結果、返信を頂くこともありご自宅での状況確認にも活用できた。又、ご利用中に体調不良等で帰られた方や、休みが続いている方には、ご自宅（ご利用者、ご家族）に電話連絡を行い、ご利用者の状態を確認し、相談等の対応や関連機関への連絡や報告を行った。

(10) ケアマネジャー及びサービス提供機関との協働

情報を共有する為、ミーティング又は電話連絡とともに定期的にカンファレンスを行い状況把握に努めた。

その他、月初めに前月のご利用者の状態（日中の様子やケアプラン実行状況）をまとめ各ケアマネジャーに月次報告書として提出した。

送り出し・サービス提供のある方にはホームヘルパーと連携し、ご利用者の状況把握に努めた。

(11) 社会貢献・地域貢献

地域が定例として取り組まれている清掃活動や田役等に協力することで地域とのつながりを持つよう努めたが新型コロナウイルスの関係で企画自体が中止となるものも多く見られた。

(12) 相談(苦情)受付

苦情に関する相談は0件であった。

(13) 事故

事故件数は1件あったが生命に関わる重大なものはなかった。

毎月事故検討会を開き、1ヶ月間のヒヤリハットの検討、分析、対応の周知、業務の推進や改善を行った。

(14) 感染症予防

入退社時には手洗い・うがいの励行、排泄介助後には手洗いをするとともに、エタノールによる手指消毒も併用して行った。

新型コロナウイルス感染予防として、朝の迎え時、ご利用者一人一人の体温測定並びにご家族を含めた健康チェックに努めた。デイルームに入る際には手指消毒の徹底と常時換気を行った。

職員は常時マスク着用を行い、ご利用者に対しても極力マスクの着用を促しているように促しを行った。

結果として、体調を崩される方は居なかったが、感染予防として利用を控えられた方は1名いた。

インフルエンザ流行期には上記対応と共に加湿器などで湿度管理を行い感染予防に努めた。

令和2年度 平均要介護度 2.16

令和2年度 実施状況（利用人数）

月	人員数	運営日数	1日平均利用
4月	648	26	24.9
5月	647	26	24.9
6月	693	26	26.7
7月	707	27	26.2
8月	697	26	26.8
9月	735	26	28.3
10月	761	27	28.2
11月	651	25	26.0
12月	685	26	26.3
1月	645	24	26.9
2月	635	24	26.5
3月	735	27	27.2
合計	8,239	310	26.6

令和2年度 年間行事

	年間行事	屋台
R2年4月	季節レク（花見）	春弁当
5月	こいのぼり運動会	ほうとううどん
6月	季節レク	冷やしそば
7月	納涼祭	たいやき
8月	夏祭り	アイスクリン
9月	敬老会・防災訓練	和菓子
10月	運動会	鯛そうめん
11月	季節レク・地震訓練	ラーメン
12月	クリスマス忘年会	にぎり寿司
R3年1月	新年会	ちらし寿司
2月	節分	バレンタインケーキ
3月	ひなまつり	巻き寿司

(15) その他

毎月デイ部会を開き行事や個別レクリエーション・創作等のサービス向上を目的とした話し合いを行い、評価し次月の行事に反映させた。

デイだよりを発行し、ご利用者やご家族にデイでの行事や日頃の様子を伝えた。

【 デイサービスセンター 庵 】

(1) 基本事業

日常生活上の援助、健康状態の確認、機能訓練サービス、送迎サービス、入浴サービス、食事サービス、レクリエーション、口腔ケア、相談・助言に関する事。

(2) 基本方針

小人数での家庭的な雰囲気の中、住み慣れた地域でご利用者がその人らしい生き方・生活が長く継続できるよう、サービスを提供した。

又、通所によりご利用者の生活にリズムができ、楽しみづくりや在宅での閉じこもり防止、社会的孤立感の解消、心身機能や生活機能の維持向上や、ご家族の在宅介護負担の軽減につなげる事ができた。

(3) 介護サービス

①通所介助計画

サービス担当者会にて、ご利用者やご家族、担当ケアマネ、多職種と居宅サービスに沿って検討し、個別のニーズに合った目標をたて、通所介護計画を作成、ご利用者、ご家族の同意を得てサービスの提供が実施できた。

②機能訓練

個別機能訓練計画書に基づき、機能的及び筋力向上トレーニングを行った。短期は1ヶ月の評価、長期で3ヶ月に評価を行い、生活・身体機能の維持・向上が出来るように努めた。

個別機能訓練Ⅱの目的である、残存する機能を活用して生活機能の維持、向上を図るために、具体的な目標を設定できた。新型コロナウイルスを含む感染症予防として一定の間隔を取り、似通った目標を持つご利用者2名程で実施を行った。他者と共に実施する事で相乗効果も生まれ、毎回目標に対する訓練の説明も行い目標達成の意欲向上を図れた。又、訓練には、生活に密着した物を使用したり、集団体操の内容にも変化を付けて楽しみながら行える様工夫しマンネリ防止が図れた。個別・集団体操共に脳トレ要素のある体操を考案し取り込むことで、認知症の進行防止も図れた。

マッサージ療法（ウォーターベッド）は、新件、体験者も含めご利用者の皆様に好評であった。実施する時間や回数の増減等、日々変化する体調に合わせた

対応をし、ご利用者一人一人のその日の状態に応じた訓練が実施できた。

③年間行事

四季の季節を感じる行事を企画、実施ができた。行事の準備からご利用者と共に行う事でやりがいや達成感にもつながった。行事を楽しまれているご利用者の様子や表情を撮影し、コメントを添えて掲示する事で、自分が写真に写っている喜びを感じて貰えた。認知症のご利用者には掲示を見て、振り返って思い出して貰う事ができた。見学・体験ご利用者にも実施の様子や楽しんでいる様子を見て伝える事が出来た。

誕生日会は個別に行い、誕生者にはおやつ希望を聞き取りし、可能な限り希望の手作りお菓子を提供した。職員の出し物や、ご利用者にも踊りや歌を披露してもらい、楽しんでもらえた。誕生日カードも手作りで作成し、ご利用者やご家族が自宅に飾られ喜ばれた。

④レクリエーション

個別レクでは、興味のある事、昔やっていたことなどに取り組んでもらう事で個人の自信につながる様努めた。作品やカレンダー作りではご利用者個々が考え作成し、自宅に持ち帰り自宅でも達成感を感じてもらう事ができた。脳トレでは、ご利用者の好みや状態にあわせた物を身近な材料でご利用者と一緒に行い、取り組んで貰い、認知症の進行防止を図った。集団レクでは、感染症予防の為、道具に直接触れないようにしたり、共用する場合はアルコールで拭き取りできる物で代用して実施した。工夫して実施を継続することで、交流できる機会を維持し、脳の活性化、また、楽しみながら体を動かしてもらった事ができた。レク内容に脳トレ要素をふまえた内容は引き続き取り入れており、頭と体両方に刺激を与える事ができた。創作活動では、季節折々の一つの大壁面を感染症対策をした上で行い、協力して作品を作り、季節を感じ取って貰えた。完成した作品を展示し集団での達成感にも繋げることができた。

⑤入浴

個浴の良さを生かし、ご利用者一人一人の好みの時間や温度調節等、出来る限り細かな希望に沿えた。冬至には「ゆず風呂」にする等、入浴時にも季節感を出す事ができた。民家の風呂のよさを楽しんでもらうとともに、安全面では、介護技術の向上に努め、今後も事故防止に努める。

⑥口腔機能向上

感染対策をした上で、食事前に口腔体操を行い口腔機能向上と認知症進行防止を図った。感染対策をした上で日中の声掛けや会話により自発語を促し、喉や肺に力が付くよう努めた。食後は全員の方に声掛けし口腔ケアを促し、実施できた。毎回口腔ケアの必要性を説明する事で「食後の口腔ケア」が定着してきた。個々の状態にあわせた口腔ケアの実施に努めた。自力で口腔ケアが実施

できるご利用者には定期的に口腔内の状態や実施方法を確認し、介助が必要な方についても同様、必要に応じて一部介助（仕上げ磨き、義歯洗浄等）を行い、清潔保持、誤嚥性肺炎防止に努めた。

⑦健康管理

バイタルチェック、体重測定（月 1 回実施、ただし体調不良にて休みがあった場合は復帰後も実施）、入浴時の皮膚、心身状態の観察を行い、必要に応じて持参薬の管理、服用時の援助を行った。血圧測定や体重測定においては、ご利用者個々のニーズに合わせた測定回数、時間での対応を記録し定期受診時に担当医に血圧手帳や連絡ノート等持参してもらい日々の健康状態を伝え、ご利用者の健康維持に努めた。ご利用者の状態に変化があった場合は、すみやかに家族、ケアマネに連絡し、必要時には他事業所や主治医への連絡を行い、情報の共有が図れた。水分摂取では、ご利用者の好みの温度での提供や、必要性や声掛けを多くし、必要な水分量を残さず摂って貰えるように工夫できた。

⑧感染症

感染症予防として、マスク着用、定時の換気、室温湿度管理、飛沫防止のパーティション、ご利用者に食後や水分補給時以外のマスク着用のこまめな声掛けの実施、アルコールによる清掃、職員及び同居家族の健康チェックや報告、送迎時の検温と車両に乗る人数の調整、就業前を含む手洗いの徹底等継続して実施してきた。また、本部さわらび会との職員の行き来も最小限に留め、蔓延防止に努めた。感染症に関する新たな情報や予防について法人から指示や最新情報が来た場合は、職員に迅速に伝達し周知徹底した。

職員・ご利用者共に、新型コロナウイルス、ノロウイルス、インフルエンザウイルスの罹患者は出ていない。

⑨送迎及びご家族との交流

送迎は常に安全運転を心がけ、安全面の注意を声掛けあった。

又、送迎時は職員がご家族及びご利用者に身体状況等を聞き、送迎ノートと口頭にて職員全員で確認し把握した。送迎時の検温が加わる事で、運転に焦りが出て事故に繋がらない様、送迎のコースを工夫した。

写真付の連絡帳はご利用者やご家族に好評で、返信も増えてきており、ご家族との橋渡しの役割が出来ている。ご利用者の体調や心身状態に変化があった場合はご家族と電話連絡をし、ご家族との情報共有もできた。送迎や電話連絡等含め、ご家族と交流する機会を増やし、ご家族の意見や意向を聞き取れる関係作りに努めた。

⑩食事

ご利用者の咀嚼、嚥下状態にあわせた食事形態を提供する事で、自力摂取を促した。当日のご利用者の体調や状態の変化をみて随時食事形態を検討し、ご本

人、又はご家族に了承をいただき変更し、食事からしっかり栄養を取って貰える様対応できた。献立においては、好みを聞きとりし利用日にあわせ好みの食事を提供出来る様に努めた。可能な限り旬の物を食材に取り入れた事で、季節感を感じてもらう事ができた。ご利用者から美味しいとの声もあり、残食も殆ど無かったが、残食があった場合はその都度大きさ、硬さ、量、好み等改善点の検討を行い完食を目指した。ご利用者の持病による食事制限にも柔軟に対応できた。

(4) その他

①ケアマネージャー及び他サービス機関との連携

ご利用者、ご家族を中心としてサービスが円滑に提供できるように、情報共有のため定期的なカンファレンス、状態の変化があった場合やご家族からの聞き取り等、その都度電話連絡にて報告する事が出来た。

②地域交流・地域貢献

地域推進会議を年二回（5月、11月）実施していたが新型コロナウイルス蔓延防止の為、紙面会議となった。運営の透明性を図り、民生委員を含む地域の方との話し合いにより“開かれた施設・地域に根付いた施設”となる様、令和3年度は、感染症対策をした上で、少人数分散や空間の工夫で実施できるようにしたいと考える。年二回（4月、11月）介良地区の一斉清掃活動にも参加させて頂いていたが、R2年度は新型コロナウイルス蔓延防止の為開催中止となった。再開時には少しでも地域に貢献できるよう参加させて頂こうと考える。地域との交流を大切に、地域住民の方には引き続きこちらから挨拶や声をかけるようにしており、感染症蔓延防止で係わりが少なくなっても、近所同士の手助け等含め、今後も地域に根ざした施設となる様に努める。

③職員研修、業務改善

新人には新人研修マニュアルに沿って研修を実施した。参加できない職員においては後日資料にて確認をした。部会ではテーマを決め勉強会を行いスキルアップを図り、高齢者虐待、身体拘束については毎月勉強会を実施し防止に努めた。業務改善についても意見を出し合い、日々体調に変化があるご利用者一人一人に合ったベストなケア、また統一されたケアが出来るよう努めた。また、職員が働きやすい環境作りの為、積極的に話を聞き、上司に報告ソフト面やハード面共に検討し改善する様努めた。

④防災

非常災害避難訓練を年2回（4月：火災想定避難訓練、10月：地震浸水避難訓練）実施した。避難訓練前後に必要な性を説明し、自宅で災害が起こった場合の行動や避難所の確認をし、防災意識の向上に努めた。地震浸水想定避難訓練では、避難タワーまでの移動も体調や歩行状態にあわせた対応により当日ご利用

者全員で参加する事ができた。今後も様々な想定の実施し、職員が役割を全うできるようにしたいと考える。また、職員のみで行う自主防災訓練（火災想定）を月一回業務終了後に実施した。毎回消火器の取り扱いや、避難する判断基準、避難ルートを確認し、実際の火災時に慌てず消火・避難できるよう訓練した。地域（介良地区）で行われる防災避難訓練には参加を予定したが、中止となった。

⑤事故、苦情件数

事故、苦情共に 0 件

(5) 令和 2 年度 デイサービスセンター庵 実施状況 (利用人数)

月	人員数	運営日数	1日平均利用
4月	228	22	10.36
5月	224	23	9.74
6月	247	22	11.23
7月	263	23	11.43
8月	246	21	11.71
9月	212	22	9.64
10月	208	22	9.45
11月	230	21	10.95
12月	217	22	9.86
1月	195	20	9.75
2月	208	20	10.40
3月	235	23	10.22
計	2,713	261	10.39

(6) 令和2年度 年間行事

年間行事		
4月	昔話	介良地区清掃(中止) 火災想定避難訓練
5月	こいのぼり体育祭	運営推進会議(紙面)
6月	紙芝居	
7月	七夕、納涼祭	
8月	よさこい鳴子踊り	
9月	敬老会	
10月	大運動会	地震浸水想定避難訓練
11月	書道	介良地区清掃(中止) 運営推進会議(紙面)
12月	クリスマス会	
1月	新年会	
2月	節分	
3月	ひな祭り会	

【 ヘルパーステーションあおやぎ 】

(1) サービス内容

身体介護では、デイや病院の送り出し 4 名、入浴・更衣・排泄・口腔ケア・清拭・移動/移乗介護が 13 名だった。受診同行が 1 名から 4 名と増加した。

掃除・洗濯・買い物代行・調理などの生活援助は 33 名であった。

令和元年度と比べると、生活援助は変わらないが、身体介護は少なくなっている。

予防は、生活援助 18 名、買い物同行 2 名、入浴支援 1 名の計 12 名。

訪問日時の変更やサービス内容（特に掃除）の要望等や、キャンセルは増加傾向であった。

(2) 利用者数

令和 2 年度 3 月末の利用者数は 67 名（介護 46 名、予防 21 名）であった。

また、令和 2 年度中の新件は介護 23 名、予防 14 名の計 37 名であった。

死亡や施設入所などで 13 名が利用中止となった。

また、3 名が入院中である。

(3) 研修

月一回の施設内・事業所内研修に加えて可能な範囲でオンライン等を利用し、施設外研修（地域ケア会議等）にも参加することで、ホームヘルパーとしての資質向上に努めた。

(4) 実習生受け入れ

新型コロナウイルスの関係で、実習生の受け入れはなかった。

(5) 感染症

新型コロナウイルス、インフルエンザ、ノロウイルスともに職員、利用者の感染はなかった。

(6) 事故件数・苦情件数

事故、苦情は共に 0 件であった。

【 居宅介護支援事業所 さわらび 】

ご本人又はご家族、地域の方に限らず電話や来訪により相談があれば介護保険制度等について説明し困りごとへのアドバイスをを行った。介護サービス利用についての相談があった場合、利用方法・サービス内容・費用等について説明を行ない迅速にサービス利用開始に努めた。また、他施設や医療機関からの退所や退院等、在宅復帰に向けてのケアプラン作成依頼を積極的に引き受けてきた。包括支援センターや医療機関からの新件紹介依頼に

随時出向き困難事例も引き受けた。居宅サービス計画の依頼があった場合は、統合的なアセスメントに努め、本人像を捉えるだけでなく、生活歴や家族関係、住環境、所得等にも留意し、ご本人とご家族が安心して過ごせるための支援が継続できるよう居宅サービス計画を作成した。

感染症対策を徹底しながら、可能な限り月1回以上の居宅訪問を行った。また、サービスの提供の状況把握・担当者会議・モニタリング・経過等の記録を行ない、サービス提供者との連絡調整を密にしながら適切にサービス提供が行なわれるように努めた。また事業所内での確に業務が遂行されているかのチェック項目を作成し、書類の不備の無いように点検した。

個人情報の保護にも留意し、業務上知り得た情報については秘密を保持するよう周知徹底した。

研修に（オンラインを含む）は出来る限り参加し、職員の質の向上を図った。

高知市における入退院時引き継ぎルールを活用し医療と介護の連携が確実に出来るように努めた。

高知市防災士会連絡協議会からのアンケート依頼にも協力し、各機関と連携を図りながら利用者への防災の呼びかけを行った。

感染症の拡大予防の為、ケアマネジャーとしてどのような対応が望ましいか、各状況に応じて、事業所内で検討し、対応策をとった。

介護予防ケアプラン作成の委託も受けており、自立度向上へ向けた支援を行なった。

24時間の連絡体制は交代制で実践し、週1回定期的な事業所内の会議を行なう事により情報の共有とマネジメントの方法について検討し全体の問題として捉えることができた。

特定事業所集中減算について週1回は利用状況を確認している。

今後も社会資源や介護サービスを効果的に利用できるようにケアマネジメントを行い、入院や入所される利用者をできるだけ増やさないようにあらゆる面から支えていけるよう努力したい。

苦情については、本年度2件発生し、いずれも事業所内での担当者交代となった。ご利用者やご家族への説明不足や迅速な対応ができなかったことが苦情となった為、今後はより一層ご本人またはご家族への誠実でかつ迅速な対応に努める。

利用者数の月目標人数の要介護者140名には今年度も届かず平均115名に留まった。

《令和2年度 月別居宅サービス作成利用者数》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
介護	113	110	116	109	111	112	117	120	118	120	121	122	1389	115.8
予防	17	17	17	19	21	22	23	21	24	27	28	29	265	22.1
計	130	127	133	128	132	134	140	141	142	147	149	151	1654	137.8